

青パト フォーラム in 福岡

青パト でつなげよう 広げよう まちづくりの輪



【実施報告書】

2014年3月

日本財団 公益・ボランティア支援グループ公益チーム

協力：九州大学 有馬研究室

2004年12月道路運送車両法の規制緩和により、青色回転灯装備車（通称：青パト）の運用が始まった。警察白書（平成24年度版）によると、全国で登録されている青パトは個人車両も含めて約40,000台ある。当財団では、2008年度から2013年度末までに防犯活動の専用車として、全国150台を配備してきた。特に、PTAによる子どもの見守り活動や民生委員と協力して行う独居老人の見守り活動等、地域が一丸となって活動している団体を支援してきたが、活動費用のねん出方法や人材育成といった課題は尽きない。そのため、青パト活動の実施団体が積極的に情報共有や課題に関する議論を行う場所を提供するため、2012年に全国で初めての青パトフォーラムを開催した。

第1回目の東京開催では、各青パト団体が事例報告を行い、活動上の問題点や今後の課題について共有し、活動の改善について議論を深めた。また講師に島田貴仁氏（科学警察研究所）を招き、日頃の防犯活動の重要性についてアカデミックな視点を用いて講演いただいた。

第2回目の大阪開催では、課題を活動費用のねん出や人材育成に限定し、小俣謙二教授（駿河台大学心理学部）に、地域ネットワークを構築するためのヒントについて基調講演をしていただいた。分科会では、青パト活動継続のための資金の獲得や人材育成等について議論を深めた。婦人会と協働してバザーを実施することにより資金を調達したり、青パトに乗車しなくても活動に賛同してくれる人を増やしたりすれば、継続的な活動が可能になるのではないかといった意見が出され活発な議論となった。

このようにこれまでの青パトフォーラムでは、青パト団体同士の情報交換による問題点の把握とその解決方法について議論を深めてきた。

今回、福岡市で開催されたフォーラムでは、さらなる青パト活動の発展のため、朴元奎教授（北九州市立大学 法学部）に近年の犯罪学の考え方について講義いただき、そういった考えをパトロール計画に生かすことの大切さについて考えた。また青パト活動を、地域活動の一つとして実施することで、防犯活動に対する理解や賛同を得ることができるのではないかという考えのもと、まちづくり専門家を交えたパネルディスカッションや学生らによるアイデアコンペを行い、地域活動と青パト活動を組み合わせる活動について話し合った。本フォーラムは、このような先進的事例やアカデミックな視点を共有し、議論することにより、九州圏内における青パト活動のネットワークを構築するために開催したものである。

1. 名 称 : 第3回 全国青パトフォーラム in 福岡
「青パトで つなげよう 広げよう まちづくりの輪」
2. 日 時 : 2014年3月8日 (土) 13:00~17:00
3. 会 場 : 福岡国際ホール
4. 主 催 : 日本財団
5. 後 援 : 警察庁、福岡県、福岡県警察、福岡市、北九州市、福岡都市圏
6. 参加者数 : 141名 (59団体/112名、来賓他)
7. プログラム

13:00 開会宣言

主催者挨拶 尾形 武寿 (日本財団 理事長)
来賓挨拶 高島 宗一郎 (福岡県福岡市 市長)
南島 彰夫 (福岡県警察 安全安心まちづくり推進室長)

13:15 日本財団助成事業について

荒木 憲秀 (日本財団 青パト事業担当)

13:40 基調講演「犯罪低減戦略における地域防犯活動の役割と課題について ～犯罪予防論における新たな展開～」

朴 元奎 (北九州市立大学 法学部法律学科 教授)

14:00 パネルディスカッション

「防犯活動を通じた、地域活性化につながる連携の在り方について」

今泉 重敏 (まちづくり専門家、(特) 地域交流センター九州事務所)
大庭 英次 (警察・行政関係者、福岡市市民局生活安全部生活安全課)
窪田 浩二 (防犯リーダー、御笠青色パトロール隊)

15:00 休憩・移動

15:15 分科会

I. 今後の青パト活動の可能性について(学生によるアイデアコンペ)

有馬隆文 (九州大学 人間環境学研究院都市・建築学部門 准教授)

II. 活動の評価について

荒井 崇文 (追手門学院大学 心理学部心理学科 講師)

15:55 休憩・移動

16:10 分科会全体報告

16:30 講師講評

16:50 閉会の辞

17:15 懇親会

参加者リスト

参加者集計

カテゴリー	所在地	団体数	人数	備考
		参加	参加	
防犯団体	福岡市	26	47	
	福岡県（福岡市除く）	15	28	
	佐賀県	1	2	
	長崎県	2	6	
	熊本県	2	6	
	宮崎県	3	3	
	鹿児島県	1	1	
	九州以外	13	19	8県
その他・個人参加		-	5	
警察・行政関係		-	24	
合計		63	141	

団体所在地		参加者・団体名
福岡県	福岡市	飯原校区自治協議会 防犯・交通安全推進委員会
"	"	内野校区自治協議会
"	"	大楠校区安全パトロール隊
"	"	株式会社プリンシプル
"	"	げんこじゅく
"	"	席田校区防犯推進委員会
"	"	だいこんの会
"	"	高宮校区青色パトロール委員会
"	"	筑校区安全安心まちづくり
"	"	堤丘パトロール委員会
"	"	堤地区パトロール委員会
"	"	東光校区防犯組合
"	"	奈多校区自主防犯防災推進会
"	"	西高宮校区ミニパト隊
"	"	野多目校区自治会
"	"	東月隈校区自治協議会
"	"	東花畑校区安全パトロール隊
"	"	東福岡防犯協会
"	"	まちづくり老司協議会
"	"	南片江防犯協会
"	"	南区高木校区交通安全部会
"	"	南区長丘校区青パト委員会
"	"	南区長住校区自治協議会 青色灯パトロール委員会
"	"	美野島校区自治協議会
"	"	読売新聞西部本社
"	"	男女子育て環境改善研究所「ざ・おやじコミュニティ」



団体所在地		参加者・団体名
福岡県	北九州市	個人参加
"	"	大蔵青パト隊
"	遠賀郡芦屋町	芦屋町自治防犯組合
"	宗像市	赤間地区コミュニティ運営協議会
"	直方市	直方地区防犯協会（東校区自治会）
"	糸島市	ごみゼロ青春探検隊いとしま
"	春日市	個人参加
"	筑紫野市	御笠青色パトロール隊
"	久留米市	宮の陣子ども安全パトロール隊
"	"	善導寺コミュニティ振興会
"	"	西牟田校区子ども安全パトロール隊
"	"	大城校区まちづくり振興会
"	朝倉市	十文字中学校区防犯パトロール隊
"	朝倉群筑前町	中牟田町「たすけあう会」
"	柳川市	柳川市防犯協会
東京都	町田市	金森中央町内会
岐阜県	岐阜市	三輪南地区の安全を守る会
岐阜県	高山市	下岡本町内会防犯パトロール隊
岐阜県	岐阜市	日置江地域防犯パトロール連絡協議会
岐阜県	恵那市	大井町地域防犯パトロール隊
滋賀県	大津市	真野北学区自主防犯推進協議会
京都府	京都市	右京防犯推進委員連絡協議会
大阪府	吹田市	千三地区青色防犯パトロール隊
大阪府	河内長野市	南花台防犯協力隊
大阪府	東大阪市	石切東地区防犯委員会
広島県	東広島市	東広島市防犯連合会
山口県	山口市	じゃがいもの会
佐賀県	佐賀市	兵庫町こどもお守り隊
長崎県	西彼杵群時津町	時津街防犯協会
長崎県	長崎市	たちばな
熊本県	合志市	黒石団地区防犯パトロール隊
熊本県	球磨郡あさぎり町	あさぎり町防犯パトロール隊
宮崎県	宮崎市	個人参加
宮崎県	日南市	心の芽
宮崎県	"	日南地区防犯協会
鹿児島県	奄美市	奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」 青パト隊
沖縄県	豊見城市	真玉橋自治会

※NPO法人等の法人格は省略
※参加申込時の参加者・団体名称で記載

「犯罪低減戦略における地域防犯活動の役割と課題について

～犯罪予防論における新たな展開～

朴 元奎 (北九州市立大学 法学部法律学科 教授)

基調講演では、犯罪低減戦略における地域防犯活動の役割と課題について話をいただいた。犯罪学というアカデミックな視点から日本の犯罪予防論の始まりから現在に至るまでの歴史を振り返り、現在社会における青パト活動の意義や役割、そして当面の課題や今後の活動についてご講演いただいた。



犯罪学では、「**犯罪低減戦略**」という考えがある。

犯罪低減戦略のアイデアは「**犯罪が0になること、犯罪が社会から無くなることはない**」ことを受け止め、「**犯罪を出来る限り少なくするにはどうすればよいか?**」を考える、というものです。

その考え方を基に、今後の青パト活動は、**地域の実情に合わせ、犯罪タイプに焦点を絞った形で**進めていく必要があると思います。

また、地域住民と警察、日本財団のような**支援団体との信頼関係を大切に**し、一丸となって**具体的な目標設定を据え**、その成果についても、現場の団体と研究者が手を組み、**実証調査研究を行って**いくことが必要です。

1. 犯罪学における犯罪予防論の新たな展開 ～ 犯罪低減戦略への転換

■ **刑罰により犯罪予防モデル**
抑止刑論および法執行モデル



■ **社会的予防モデル**
社会的環境を重視したモデル



■ **状況的予防モデル**
犯罪機会理論 (意図を持った犯罪者、魅力的な標的、監視人の不在、の三要素が重なる時間・空間に犯罪が発生しやすい、とする理論) に裏付けされたモデル

抑止刑論に始まる“刑罰の威嚇力による犯罪予防”から、社会的予防モデルへの転換、そして環境設計による犯罪予防 (CPTED) へとつながる状況的予防モデルへの流れを、それぞれの時代に重視された事柄等を踏まえ、各特徴を紹介。

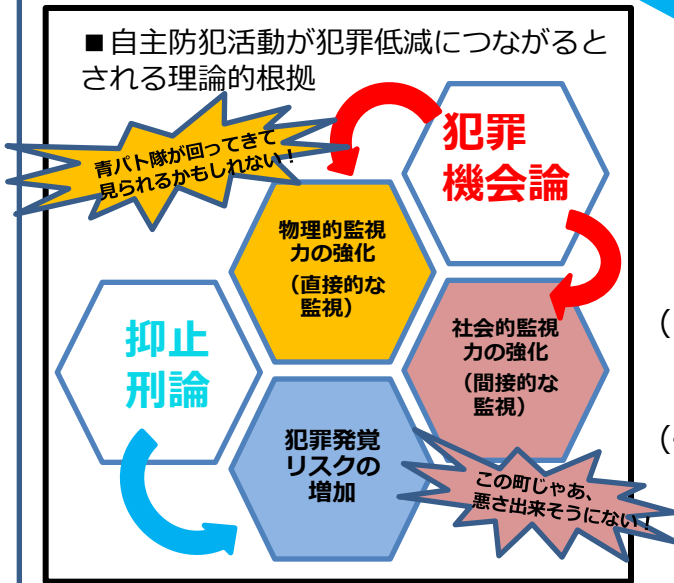
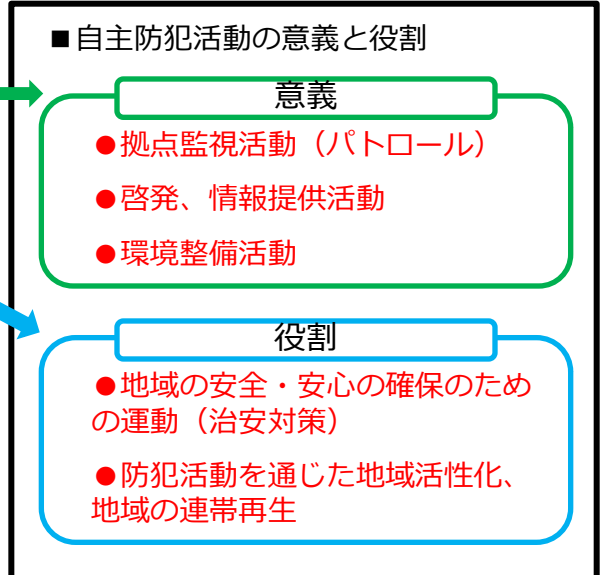
また、犯罪予防論における新たな潮流として、「犯罪低減戦略」に主眼をおいた取組への展開をご紹介頂き、その必要性和、先例、そして日本における動きを紹介。

- 犯罪低減戦略への転換の必然性
 - <プログラム評価、効果的・効率的な支出の運用要請
 - <犯罪0を目指す理想主義からの脱却
 - <より**現実的な犯罪低減論**へ
- 犯罪低減戦略の先例
 - <英国における「犯罪低減プログラム」(1998)
- 日本における犯罪低減戦略に対する動き
 - <2013年の日本・犯罪対策閣僚会議における提言等



2. 犯罪低減戦略から見た「自主防犯活動」の意義・役割及び課題とは何か

- (1) 地域防犯活動・自主防犯ボランティア活動の意義を3つの視点からまとめて再提示・紹介。
- (2) 自主防犯活動が犯罪低減戦略の中で持つことが出来る役割を、治安対策と地域の連帯再生の2つの視点を用いて解説。



- (3) 自主防犯活動が犯罪の低減に対して効果があることに対する理論的根拠を説明。
- (4) 最後に、自主防犯活動が今後直面する課題について、一般的なものと、日本の都市が抱える特有のものに分けて犯罪学の知見に基づいて指摘。

※使用スライド抜粋

3. まとめ

今後の青パト活動の大きな目標としては、**地域ごとに違った対策の必要な犯罪のタイプ**（ひったくりや自転車盗難など）などに合わせ、青パト活動をそれぞれの地域でカスタマイズする必要がある（例えば、自転車盗難が多い地域では、盗難の多い自転車駐輪場を考慮したルート作りをする等）。

また、**地域住民と警察、第三セクターや支援団体との密な連携をとっていくことは非常に重要**である。

具体的には、青パト活動による、犯罪が発生しやすい状況が作られにくくする活動を協力して行うと共に、その活動を通して得られた情報を研究者側が分析し、社会にフィードバックすることによって、**バランスのとれた対策を練っていくことが将来的に必要**となる。

防犯活動を通じた、地域活性化につながる連携の在り方について

パネルディスカッションでは、会場の参加者と共に青パトの活動事例や課題について、様々なアイデアを織り交ぜながら具体的な解決方法について話を深めた。福岡県筑紫野市で青パト活動に取り組む窪田氏の話から、「人・金・活動のマンネリ化」といった課題のキーワードが出てきた。



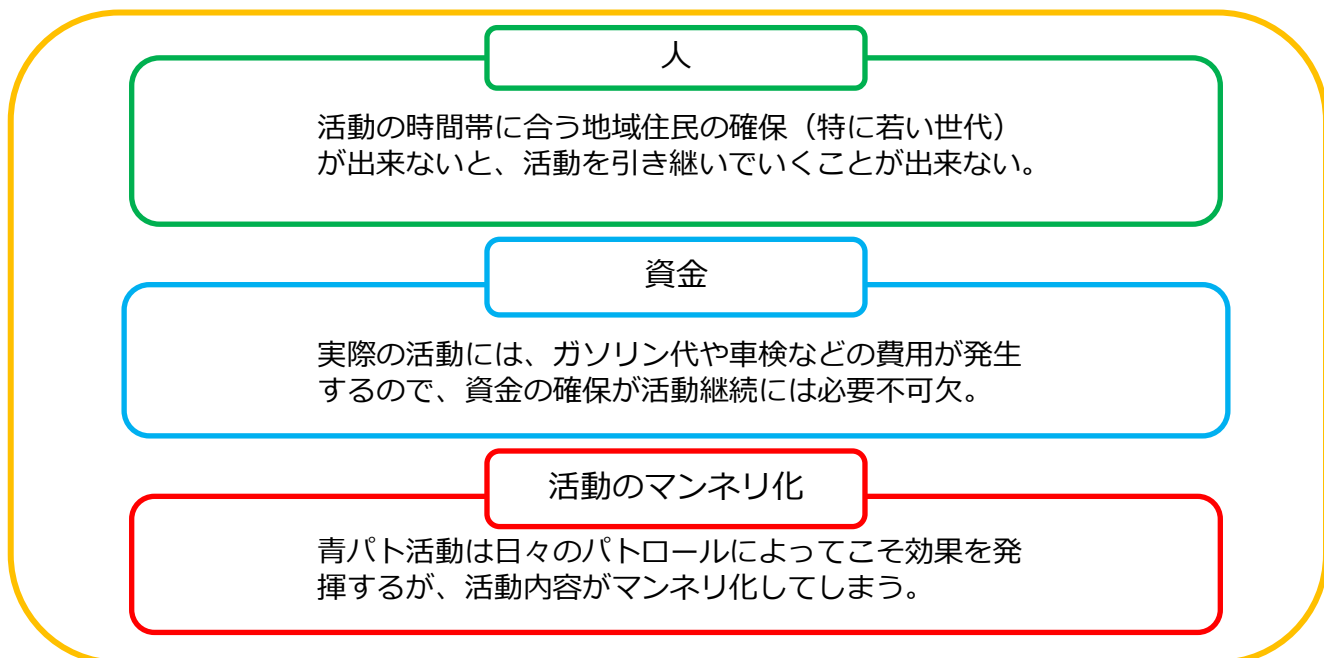
今泉氏 (まちづくり専門家) 大庭氏 (行政関係者) 窪田氏 (防犯リーダー)

窪田氏： 御笠青色パトロール隊 には、120名の会員がおり、10台の青パト車を運行しております。当団体は、地元の有志によって設立された団体で、車両の購入費やガソリン費などは、すべて会費で賄っています。「人」に関する問題は、どの団体にも共通する課題です。**メンバーの高齢化や若者の無関心**等といった様々な理由があるかと思います。

これは持論ですが、「**パトロールは、地味で孤独**」だと思っんです。日々の活動があつてこそその犯罪抑止力ですが、「だから」こそ活動がマンネリ化し、人にわくわく感を与えられないし、資金も集まらない。こういった問題を解決するには、イベントだと私は思います。

青パトに乗車しなくても、気軽に参加できる**イベントを組み合わせ**ていくことで、準会員といったサポーターを増やしていくことが大切だと思います。

■ 青パト活動の課題 ■



人について

新興住宅地等では、共働きの家庭が増え、青パト活動といった地域活動に参加できない若い世代が増えてきた。どうすれば、より多くの地域住民が活動に参加してもらえるのでしょうか。若い世代にも地域の安全について考えてもらいたいのに、なかなか青パト活動を一緒にする機会がない。防犯団体のメンバーも高齢化しているため、今後の継続的活動が心配だ。といった声が多くあった。



青パト活動を実施するにあたり、単に青パト車に乗車し、地域を見守るだけでは住民を巻き込むことは難しいです。

そのため、**青パト活動+他の活動を組み合わせる**ことによって、住民に関心を持ってもらい巻き込むことは可能であると思います。

その活動内容も、多くの人々が興味を持つことができ、かつ組織としても連携の出来る体制を築いていく必要があります。

ワクワクする、楽しんでできる活動がいいですね♪

対策・解決策事例

活動への参加とは、実際に青パトに乗車することだけではない。

小さな楽しみから少しずつ広げていくことが大切。

紹介事例

■かかし作り

かかしをつくり、それを地域に置くだけではなく、**青パト車の後部座席に乗せ一緒に見守る**ことで、住民に興味を持ってもらう。かかしを作る人も協力者になる。



■走行マップ作り

今まで青パト活動で走行した距離を日本地図等で表示させることによって、達成感や参加者の意欲向上を図ることができる。



■参加者の似顔絵作り

青パト活動参加者の似顔絵を青パト車に張り付けることによって、誰が運転しているのかが分かりやすく、親しみを持ってもらう。



資金について

青パト活動は、車両の維持費やガソリン代などの費用がかかる。防犯団体や個人負担だけでは、活動を継続することが難しい。どうすれば、継続的な資金を確保できるのだろうか。



御笠青色パトロール隊は、民選委員によって設立された団体であるため、他の団体と異なり自治会費などの安定的な収入がありません。

そのため、**会員制度**を導入しています。これは、青パト活動に参加したい人は会費を払って会員にならないければ、青パト活動には参加することができないようになっています。

企業による支援として、2014年1月から福岡県内にある特定のガソリンスタンド青パト車の給油代などを割引くサービスがあります。

これは県内のガソリンスタンドより福岡県警に要請があり、平成26年の1月に実現しました。

このような企業との連携によって、**金銭面での支援**だけではなく、**物品の貸し出し**など**モノの支援**も広がっていくことができるのではないのでしょうか。

対象のガソリンスタンドには、右のステッカーが貼ってありますよ！



参考：ガソリン支援
福岡県警察HPより
<http://www.police.pref.fukuoka.jp/seian/seian/aopatoshien.html>
(2014.5.1現在)

対策・解決策事例

青パトの費用負担は自治会費だけではなく、**連携先を広げていく**ことによって、行政や民間企業や地域団体など幅広く支援をしてもらうことが大切である。

資金問題への対策

- ・行政による支援の活用（ガソリンスタンドの割引支援、青パト保険など）
- ・会員制の導入
- ・企業から協賛
- ・物品販売

活動のマンネリ化について

どんな活動でも、何らかの変化や発展がなければ、モチベーションは低下してしまう。青パト活動は、「地域の誰かがしてくれる。」って考えている人も多くいます。でも地域の安全は、地域全体で守っていくものです。青パト活動を変化させていくには、どうすればいいのでしょうか。



活動のマンネリ化は、人材育成にも関係があります。青パトは、防犯抑止力として役に立ちますが、他にもいろいろな活動ができるのではないのでしょうか。

例えば、認知症を患っている方が、迷子になってしまったケースでも、青パトが出動して探すこともできる。自然災害が起こった時でも、いつも連携をとって活動をしていたら、迅速な対応をすることができる。

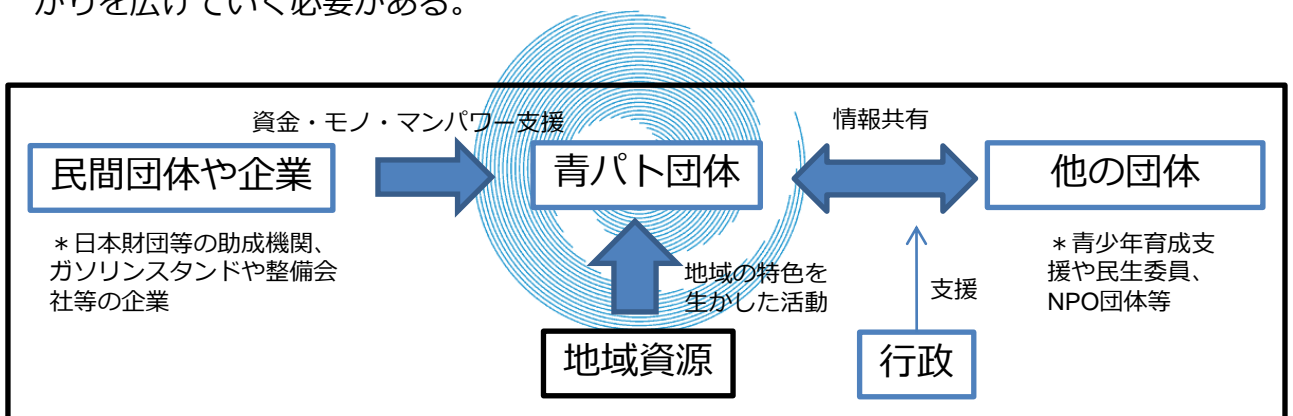
団体同士の横のつながりを強化しながらネットワーク体制の構築を進めていく必要があると思います。そこから互いに活動を工夫する方法を見つけることができるのではないのでしょうか。

対策・解決策事例

「防犯」を**他人事にしないで、自分ごとにしていく**ことで、地域でいろいろな人を巻き込む活動に変化してくるはず。地域で活動している他の団体と情報交換をしてみるものいいですね。

パネルディスカッションのまとめ

- 各地域によって、行政の対応や活動の実態が異なるため、全ての地域に共通する普遍的な方法はない。今後は「公助・共助・自助」の中で、共助の考えが非常に大切になるため、活動を通して地域で多くの人を巻き込み、活動に関心を持ってもらうことが求められる。
- 新たな活動を始めていく上で、それぞれの地域で考えられる資源について、再度考え、「防犯」という概念にとらわれない活動を考える必要がある。
- 団体同士の情報交換の場が現在ないため、そのような場の創出にも力を入れて横のつながりを広げていく必要がある。



フォーラムでは2つの分科会を実施した。

分科会Ⅰ

「今後の青パト活動の可能性について」(学生によるアイデアコンペ)

青パトの活動をより広げたい！だけど、新しいアイデアがない！！という問題点がある。そのような背景から、九州大学の有馬隆文氏と有馬研究室に所属する学生に協力頂き、防犯活動やまちづくりについて今までの枠にとらわれない柔軟な青パト活動のアイデアを募集した。事前の選考結果から、本コンペでは下記の3グループに発表してもらい、最優秀案をフォーラムの参加者による投票によって選定した。

- (1) 青パトにあいさつをしてきみも隊員になろう！
所属：九州大学
片平恭介、姜気賢、野口駿、三吉和希、吉田健志
- (2) 青パトの家
所属：九州大学
金ドン均、指原元樹、松山加菜古、三崎輝寛
- (3) 青ライト活動
所属：九州大学
小川隆、小川賀位、末吉祐樹、杉野弘明、大和遼



分科会Ⅱ

「活動の評価について」 荒井 崇文 (追手門学院大学 心理学部心理学科 講師)

青パト活動を継続していく上で、活動の評価をどのようにするのは重要な要素である。そのようなことから、追手門学院大学の荒井氏に講演して頂き、ワークシートを用いた青パト活動の評価方法、今後の活動に必要なことについて心理学の視点から議論した。



発表①

青パトにあいさつして
キミも隊員になろう！

1. 提案の内容

青パト活動の課題として、「認知度が低い」ことが挙げられ、子供たちをターゲットとして青パトの認知度を上げます。

青パトを見た子どもたちが、青パトにあいさつ（敬礼）をすることで、青パトをモチーフにした缶バッジが貰え、「青パト子ども隊員」に任命され、子どもを中心に青パトに参加してもらう活動である。対象は小学生の低学年、中学年を対象としている。もらった缶バッジをランドセルや筆箱など、自分の持ち物に付けることで、その子の友達やその子の親にも青パトを知ってもらい、青パトの認知度が広がっていく。

青パト活動の問題点

参加者の高齢化
人材不足

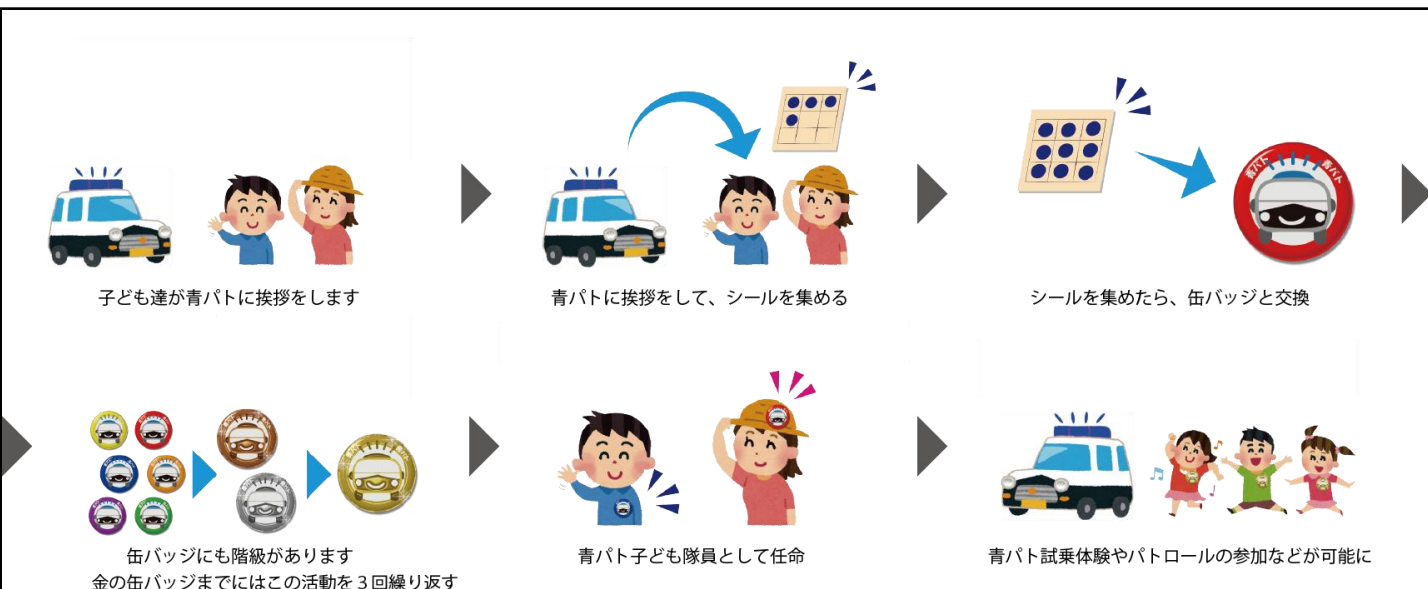
認知度
活動費用



子どもたちにアプローチすることで
青パト活動の認知度を上げる

2. 活動の流れ

- ①この「青パトにあいさつしてキミも隊員になろう！」という活動を広めるために、ポスターをPTAと協力し、パトロールする地域や小学校に張ってもらい、小学生を中心に広めます。その際に各クラスの担任の先生からもこの活動を説明してもらいます。
- ②青パトに興味を持った小学生に活動が広まり、青パトにあいさつしてシールを9枚集めて、缶バッジをもらい、青パト子ども隊員に任命されます。
- ③その缶バッジをもらった小学生は、それをランドセルなど自分の持ち物に張ったりすることで、他の小学生を巻き込み、さらに活動が広がります。また、その子どもの親にも青パトという活動を知ってもらうきっかけとなります。



- ④また缶バッジも色によって3階級、青や赤、銀や銅、金などがあり、金の缶バッジをもらうにはこの活動を3回繰り返す必要があります。
- ⑤これにより、幅広い年代の方に知ってもらうことで青パトの認知度が向上し、現在問題となっている高齢化活動や活動資金の不足を解消することができると考えられます。

3. かかる費用

本提案を実施するに当たり、必要になる費用としては、ポスター印刷代が約3万円と缶バッジが1000個で4万円（1個あたり40円で計算）であり、費用負担が小さいため気軽に始めることのできる強みです。



啓発ポスターイメージ



缶バッジイメージ

発表②

青パトの家

1. 提案内容

日本の空き家・空き地の増加は、防犯・防災面から地域住民への不安をもたらす。
→空き地においてコンテナを活用した青パトの拠点施設（**青パトの家**）をつくる提案。

2. 海外での事例

韓国では、コンテナを活用したパトロールの拠点施設が存在している。
韓国のコンテナ施設：パトロール時以外においても地域住民が気軽に利用できるように工夫。
⇒コンテナの購入に関しては、警察からの補助や住民からの寄付金によって資金を賄っているなど住民の地域へ貢献したいという思いが強いことが活動の継続につながっている。

3. コンテナの入手方法

コンテナの価格は中古でも20万円程度かかり、かつ施設内の設備などにも資金かかる。そのため、民間企業や地域の団体に対して協賛を呼びかけ、コンテナや青パト車両に広告等を掲示する代わりに資金の補助してもらう。

4. 青パトの家の設置場所

地域にある空き地を考慮し、特に犯罪件数の高いところに設置する等、程良く散らすことでまちの防犯機能を高める。



交番との連携が取れるように分散配置にする



青パトの家イメージ図

5.青パトの家の特徴と多機能を持たせる工夫

①避難場所：

小学生が下校する時間帯を中心として、「青パトの家」に住民が駐在することによって児童や生徒に何かあったときに**緊急の避難場所**としての役割。

②犯罪掲示板：

「青パトの家」の中にホワイトボードなどに貼り付けた地域の犯罪情報に関する掲示板を設け、**地域住民が自由に情報を記入**。

* 掲示板を目立つ場所に置くことで、地域の安全に関する情報を共有しやすくし、その情報を元に青パト巡回時におけるルートは実施者に委ねる。

③子どもによるペイント：

コンテナには地元の**子どもたちにイラストを描いてもらう**ことで、子どもたちに親しみを持ってもらいます。明るいデザイン⇒住民が不安な地域においても安心してもらう。

④ブックカフェの併設：

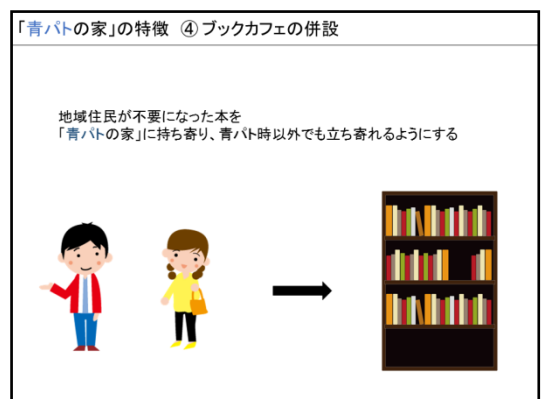
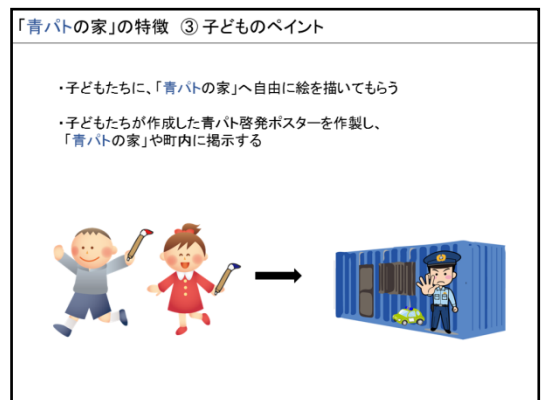
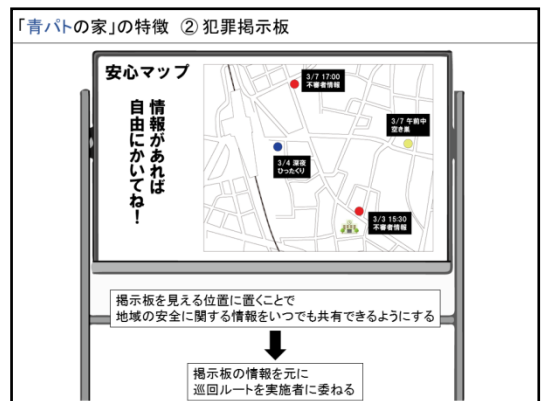
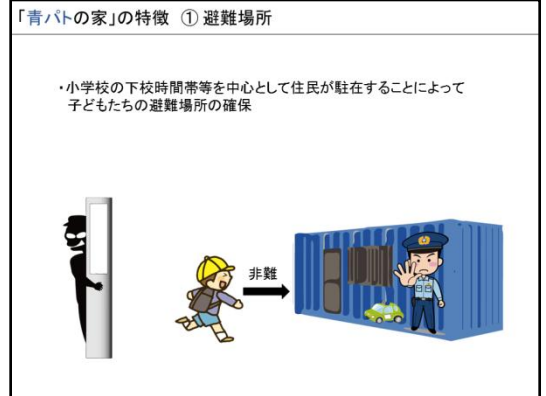
青パト交番の中に本棚を設け、そこに**地域の住民が不要になった持ち寄った本を自由に持ち寄り**、本を貸し借りすることで住民同士の交流を図る。



青パト出動時意外においても、青パトの家に多機能を持たせることで、住民が気軽に青パトの家を利用できるようにします。

6.まとめ

青パト活動及び青パトの家を継続していくためには、資金の確保が重要でありそのためには地域住民の理解が必要です。地域住民の理解を得るために、青パト活動のみだけではなく「**青パトの家**」を拠点として**様々な活動を広げていく**ことによって青パトに対して理解をより深めてもらいます。



※使用スライド抜粋

発表③

青ライト活動

1. 提案内容

青パト活動で改善すべき点を考える際に、犯罪者の立場になって「本当に青パトが脅威に感じられるのか」を想像して考える必要があります。そうすることによって、以下の問題を挙げることができます。

- ・ 定時で決まったルートを守る青パトは、対策を取られると無力。
- ・ ボランティアによる参加なので、深夜～朝の時間帯は活動する人がいない。
- ・ 数の限られる青パトで、住民が望む全ての場所を回るのには限界がある。
- ・ 青パトの運転には青パト免許が必要であるため、手軽に参加できない。
- ・ 働いている社会人の参加は難しいため、若い世代の参加者が増えない。



犯罪者の立場で問題を考える



青色の光を発するセンサーライトを地域で共有し公道に向けて設置しよう！

青パトを「車」と「ライト」に分けて考えると可能性が大きく広がります。従来は「青パト活動を行うのは、青色の回転灯を付けたパトロールカーだけ」でしたが、上の提案により「その道を通る全ての車が、青パトのような存在になる」と変わります。私たちは、この提案を「**青ライト活動**」と名付けます。



2. 提案の特徴

この「青ライト活動」には大きな特徴があります。それは手軽さです。以下のような手軽さがあり、どの地域でも簡単に取り組みます。

- ・ 青ライトはひとつ千円程度からあり、低予算で始められます。
- ・ 既製のライトに青いフィルムを巻くだけでできる。
- ・ 活動の規模に合わせて、必要に応じて導入できます。
- ・ 電源コードで動くタイプではなく、乾電池式、太陽光式のものにすることで、地域内の移設を簡単に行うことができます。また、管理も極めて簡単です。
- ・ センサーライトを期間限定で貸し出すことも、複数の自治体で共有することもできるので、活動の汎用性が高いと言えます。



3. 提案の効果

■ひとつのライトで複数の効果を見込めます

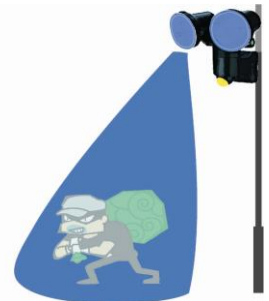
ただその場所を通るだけで、地域を青色のライトで照らすことができます。つまり、全ての人が極めて気軽に青ライト活動に参加することになります。この参加しやすさこそが、従来の青パトでは実現できない特徴であり、青パト活動の認知度を高めます。



自分の車に乗るだけで活動に参加できる



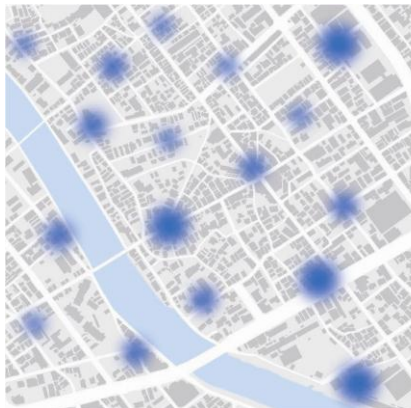
歩行者は自分の周辺が照らされると安心する



犯罪者は目立つことを嫌がる

■青ライトと青パトが連携することで、街全体を見守ります

青ライトと青パトの連携により、犯罪者を遠ざける街を作ることができます。犯罪者の立場になって考えてみましょう。どういう地域を嫌がるでしょうか。「いつ、どこで、自分が目立つか予想できない地域」には近づきたくならないはずです。青ライトは車や人に反応して青い光を発するので「いつ自分が目立つか予想できない地域」を作ります。また、青ライトと青パトの配置を変え続けることで「どこで自分が目立つか予想できない地域」を作ります。



青ライトによる「点」としての防犯

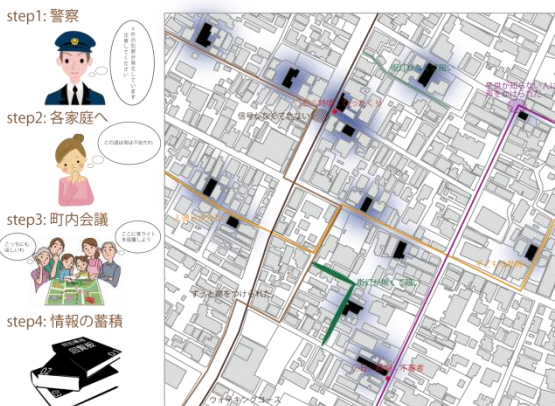


青パトによる「線」としての防犯



青ライトと青パトによる「面」としての防犯

■防犯専用回覧板により地域全体で情報を共有します



町内回覧板と合わせて地図付きの防犯専用回覧板を回し、地域の情報共有と青ライト設置場所の決定に役立てることができます。

さらに、警察と連携し、定期的に情報を共有することで防犯意識を高め、同時に青ライト活動のソフト面をカバーします。



様々な個人の意見が反映される

講評

九州大学有馬隆文氏から各グループのアイデアについて講評を行い、各グループについて下記の意見が挙げられた。

① 隊員になろう

- ・シールと缶バッジを作るのみなので、費用もあまりかからず、実現性が最も高い
- ・子どもを活動に巻き込むことは、子どもたちにも関心をもってもらい、将来の防犯活動の担い手を作る観点からも興味深い。

② 青パトの家

- ・青パト拠点の場ができることによって、活動の様子が青パト巡回時以外においてもわかりやすい。
- ・費用面で課題があるが、韓国では実施済みで、日本でも行うことは十分に可能である。

③ 青ライト活動

- ・青パトの活動は一般の人々にとっては敷居の高い活動であるが、この活動によって参加範囲が広がる。
- ・全国的な重大事件が地域の犯罪不安につながっているということもあり、犯罪専用回覧板によって地域の犯罪情報について知ることができ体感不安を低下させることにつながる。



九州大学人間環境学研究院准教授 有馬隆文氏

総評

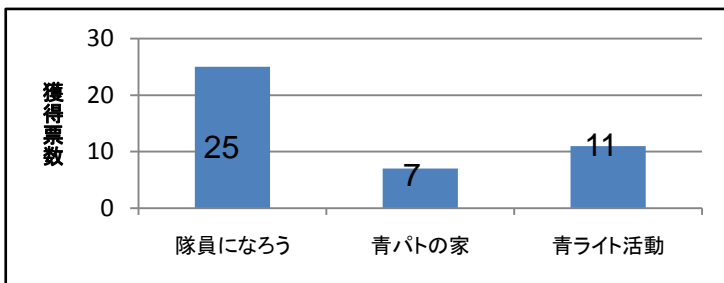
今回学生が発表した内容は、それぞれ内容や方法は異なっているが、地域全体としてどのように青パト活動を広げていくのかという共通の視点があった。今回出た案を参考とし、各団体がオーダーメイドで新たな青パト活動を実施することによって、良好なコミュニティをつくるきっかけを与えることが期待される。

結果

学生によるアイデア発表の後、当フォーラムに参加した各団体1票ずつ投票を実施した。結果は「青パトにあいさつしてキミも隊員になろう！」案が25票を集め最優秀賞を受賞した。



Congratulation



青パトコンペ投票結果





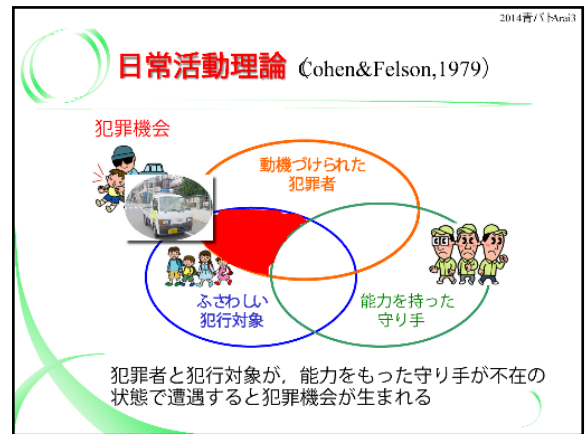
荒井 崇文 (追手門学院大学 心理学部心理学科 講師)

犯罪に関わる3理論

青パトの評価方法の前に、青パトを含めた防犯活動を考える上で必要となる犯罪に関する3理論について説明をして頂いた。

① 日常活動理論

犯罪機会が生まれる場所の傾向として、能力をもった守り手がおらず、動機付けられた犯罪者と犯行対象が遭遇する場所で起きやすい。
⇒地域で犯罪場所が生まれる場所を探し、そこを重点的に見守る必要がある。



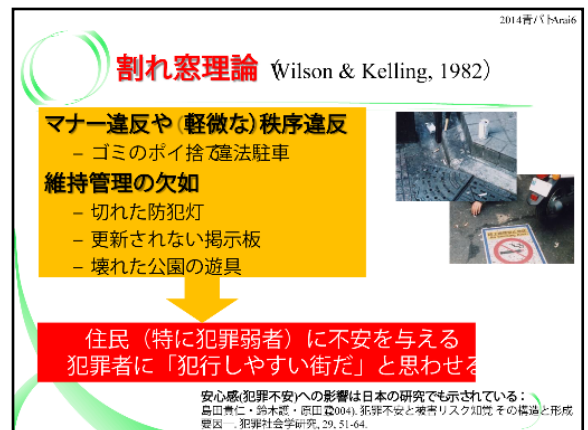
② 合理選択理論

犯罪者は犯罪で得られるメリットが犯罪にかかるリスクよりも大きい場合に犯罪を行う傾向がある。
= 犯罪者が犯罪を犯す試行経路には様々な判断をしている。
(例：空き巣において犯罪者は最初に地区選択し、その後地区内における街路選択、敷地選択、建物選択の順に選択し、犯罪を行っている。)
⇒青パトの効果・・・地区選択や街路選択において効果がある。



③ 割れ窓理論

マナー違反や維持管理が欠如した場所があると、その場所は犯罪者にコミュニティが薄い場所であるということを示すことになり、犯罪を実施しやすくなる。そのため、青パトでこのようなマナー違反等についても見守る必要がある。



活動の評価方法 第一の次元

防犯活動の評価・・・何を目標に設定するかどうかで何を結果とし、評価するのが異なる。

>>> 青パト活動：犯罪件数が減少せずとも、住民の安心感のための活動であれば、それが結果となり評価につながる。

■大事なポイント！■

犯罪認知件数の変化や住民の犯罪不安の軽減などの結果（アウトカム評価）のみに注目せず、それに至るまでの過程の評価（プロセス評価）についても考慮する必要がある。

2014青パトArat12

結果だけで評価してないだろうか (その1)

過程で
評価するのか？

プロセス評価

学習内容は？
勉強時間は？
体調管理は？

方法（パトロール内容）の改善に役立つ！

結果で
評価するのか？

アウトカム評価

数学の成績は？

効果の有無を知って施策のあり方の再考

評価と言っても、ただ結果を評価すれば良いわけではない！

2014青パトArat11

活動を評価する 青パトの場合

プロセス評価

- 何日実施したか
- 何人（台）が参加したか
- 何キロ走ったか

思うより、簡単にできます

アウトカム評価

- 犯罪が減ったか（起きなかったか）
- 近隣住民の安心感が増えたか

（体重と違い）
厳密に評価するのは、実はムズカシイです

結果に一喜一憂しないことも大事です

※使用スライド抜粋

活動の評価方法 第二の次元

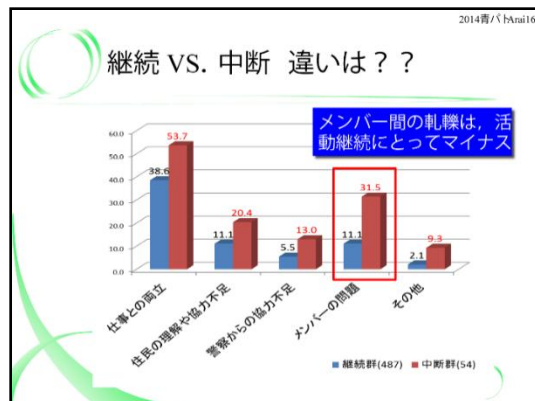
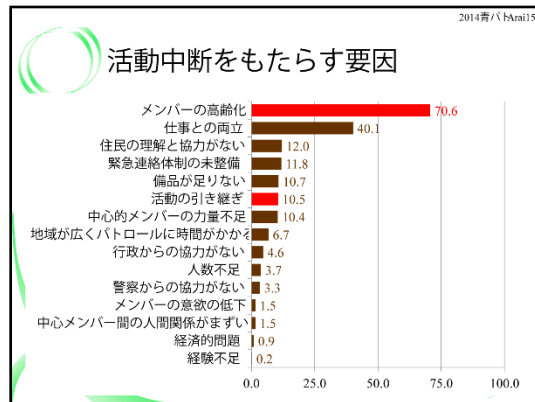
集団のリーダーになった時に、どのようなリーダーシップをとるべきかについてとその評価方法について説明をして頂いた。

- 防犯活動の活動中断をもたらす要因
(過去に実施された調査で最も多かった回答)
- 「メンバーの高齢化」
 - 「仕事との両立」

⇒詳細に分析してみると、防犯活動が継続できている団体と出来ていない団体がそれぞれ抱えている問題に違いが見られた。

最も違いが表れたもの = **メンバー間の関係**
>>> **メンバー間の関係があまり良くない状態が続いてしまうと、活動の継続に支障をもたらしてしまう可能性が高くなる。**

★集団のリーダーはメンバー間の関係についても考慮して活動を実施していく必要がある。



※使用スライド抜粋

青パトの活動の評価に関して、第一の次元に挙げた「過程の評価」と「結果の評価」に加えて、「**集団の満足度評価**」の視点も加える必要性がある。

■ 集団の満足度を考える上で、リーダーには求められる役割 ■

- ① 目標を達成するために先導的に集団を引っ張っていく能力（P機能）
- ② 集団の雰囲気調整する能力（M機能）

※使用スライド抜粋

2014青パトArai18

集団を評価する 青パトの場合

パフォーマンス評価

- 活動効率は？
- 活動は目標に向かってる？
- 活動コストは？

これは自然に行っていることが多いかも

メンテナンス評価

- メンバーの満足度は？
- メンバー間でいざこざは起こってない？
- 一人に過重な負担がかかっていないか？

活動に目を奪われると
集団内部の力動がおざなりになる

活動中断の契機に...

2014青パトArai17

評価のもう一つの次元（集団の評価）

パフォーマンス評価

活動効率で評価するのか？

メンテナンス評価

集団満足度で評価するのか？

活動内容だけに注目すると、
思わぬ落とし穴が...

- **PM理論**（三隅,1978）
 - 目標達成機能 **P機能**）と集団維持機能**M機能**）という2つの機能を組み合わせた、リーダーシップ類型論

⇒これらの能力を把握する方法として本フォーラムでは、ワークシートを用いて実施した。

PM理論ワークシートの流れ

- ① 1) ~ 16) の設問に対して最も当てはまるものに丸印をつける。
- ② 偶数番号の設問の回答項目の総計を算出（P得点）
奇数番号の設問の回答項目の総計を算出（M得点）
- ③ 算出したP得点とM得点を各16点を基準として4つのパターンに分類できる。

		M得点	
		16点未満	16点以上
P得点	16点以上	pM	PM
	16点未満	pm	Pm

2014青パトArai20

リーダーシップの理論

仕事はできるが人望がない

P

目標達成機能

目標を明確にし成果を上げ、
集団をまとめる力もある

PM

成果を上げる力も成員に配慮する力も弱い

pm

人望はあるが、仕事はいまひとつ

pM

低 M 集団維持機能 高

※今回実施した方法は、厳密な調査方法とは異なるが簡易的に調査できるものとして実施した

青パトフォーラム in 福岡(分科会2 ワークシート)

【自分が活動リーダーの方】
以下の各行動は、普段の青パト活動中の自分の行動として、どのくらい当てはまるでしょうか？
1)~16)までの各項目について、該当する数字に一つだけ丸印をつけてください。

【他に活動リーダーがいる方】
以下の各行動は、普段の青パト活動中のリーダーの行動として、どのくらい当てはまるでしょうか？
1)~16)までの各項目について、該当する数字に一つだけ丸印をつけてください。

	当 て は ま ら な い	当 て は ま り ま る	あ り ま る	あ り ま る ま る
例) 朝は米を食べる	1	2	3	4
1) 活動の約束ごとについてメンバーにやかましく言ってしまう	1	2	3	4
2) 活動のことで、メンバーと気軽に相談できる	1	2	3	4
3) 活動のことで、メンバーに指示や命令を与えることが多い	1	2	3	4
4) メンバーの行動や発言を支持するように心掛けている	1	2	3	4
5) 活動時間や活動頻度について、ついやかましく言ってしまう	1	2	3	4
6) メンバーの個人的な問題にも気を配っている	1	2	3	4
7) 活動が所定の時間や量に達するように要求することがある	1	2	3	4
8) メンバーを信頼している	1	2	3	4
9) メンバーには最大限に活動を行ってもらえるように働きかける	1	2	3	4
10) メンバーが優れた活動や行動をした時には、それを賞賛する	1	2	3	4
11) メンバーの活動でのミスや、責めてしまうことがある	1	2	3	4
12) 活動上の問題について、メンバーに意見を求める	1	2	3	4
13) 活動の様子について、逐一報告を求めている	1	2	3	4
14) メンバーが家庭の事情などで活動に参加できない時に気を配る	1	2	3	4
15) 目標達成の計画を詳細に立てている	1	2	3	4
16) 各メンバーと公平に接するようにしている	1	2	3	4

※上記の項目は、発表者が 三隅(1984)を青パト活動用にアレンジして作成した。

P(パフォーマンス)得点
M(メンテナンス)得点

上記の得点を見ていかがだったでしょうか？自分のリーダーとしての特徴(所属する活動団体のリーダーの特徴)を振り返り、今後どのように活動をおこなってほしいか、以下に書きだしてみよう。

PM理論ワークシート

集団のリーダーに求められるもの

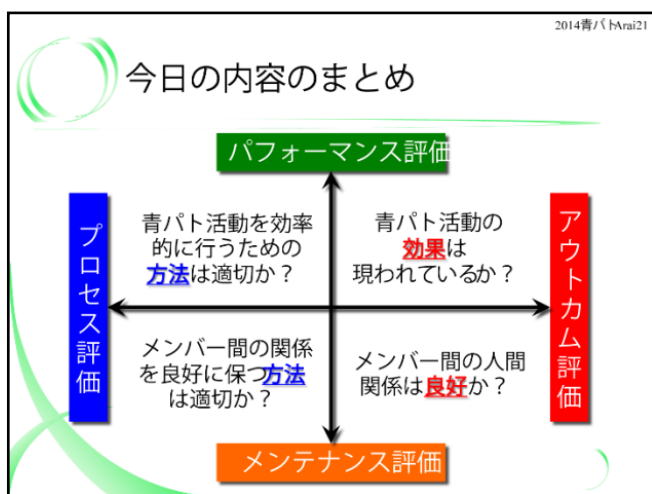
- 団体に必要なことを把握
- P機能とM機能の両面から評価
- 集団の満足度についても考えていく

2014青パトArai19

メンバーは満足しているか？

- **目標達成 (performance) 機能 (P機能)**
 - ・ 集団目標を明確にし、計画・方法を具体化し、仕事の遂行に向けてメンバーを動機づけ、結果を評価する
 - ・ 集団固有の目標追及と作業の実現に関する機能
 - 目標達成に向けて、ぐいぐい引っ張るリーダー
- **集団維持 (maintenance) 機能 (M機能)**
 - ・ メンバーの意見や不満に耳を傾け、メンバー間のコミュニケーションや人間関係を良好に保ち、集団の魅力や士気を高める
 - ・ 集団が全体としてまとまるように働きかける機能
 - フォロワー間を調整し雰囲気良くするリーダー

分科会Ⅱまとめ



2014青パトArai22

最後に、集団満足度から参加者を増やすコツを心理学的に考える

- ・ **防犯活動以外の楽しみを増やす**
 - 活動後の交流（飲み会・お茶会）
- ・ **参加時の喜びを伝える**
 - 「報酬」となり動機づけになります
- ・ **活動の担い手を評価する**
 - 「自己評価」や「自尊心高揚、継続性につなげましょう」
- ・ **最初のハードルを下げる**
 - 参加しやすい活動（ステッカー貼り）から：「フット・イン・ザ・ゲート」

※使用スライド抜粋

青パトの活動によって、犯罪が減ったかどうかや安心感が増加したかどうかについて評価をしてするだけではなくその過程でどのような事柄が行われていたのか、どういう過程を通して得られた結果だったのかが分からなければ青パト活動の改善の余地を見つけることは難しいため、**結果だけにとらわれるのではなくその過程にもしっかりと目を向ける必要がある。**

また、過程と結果だけを気にするのも駄目であり、**内部の満足度にも目を向ける必要があること**、集団の満足度が低い集団や人間関係がよくない団体では、活動が長続きしない傾向があること、そして活動を継続させていくためには、そのパフォーマンスとその団体を存続させるために集団自体の満足度（メンテナンス）に目を向ける必要がある。

今回のフォーラムで出た講評やアイデアはすぐに実行するのではなく、今後、青パトを継続させていくために必要になるきっかけ作りとして考えるべきである。



青パト活動の実態把握をするためのアンケート結果（日本財団実施）

青パト導入によって地域における犯罪件数は減少したと回答した団体が8割強あり青パトが犯罪に効果があると考える団体も多いことが考えられる。

青パト活動は車両を用いるため、従来よりも広範囲の活動をするようになった団体が約7割、活動階数が増加した団体が約9割も存在し、青パト導入によって地域の防犯活動がより活発になったのではないかと考えられる。

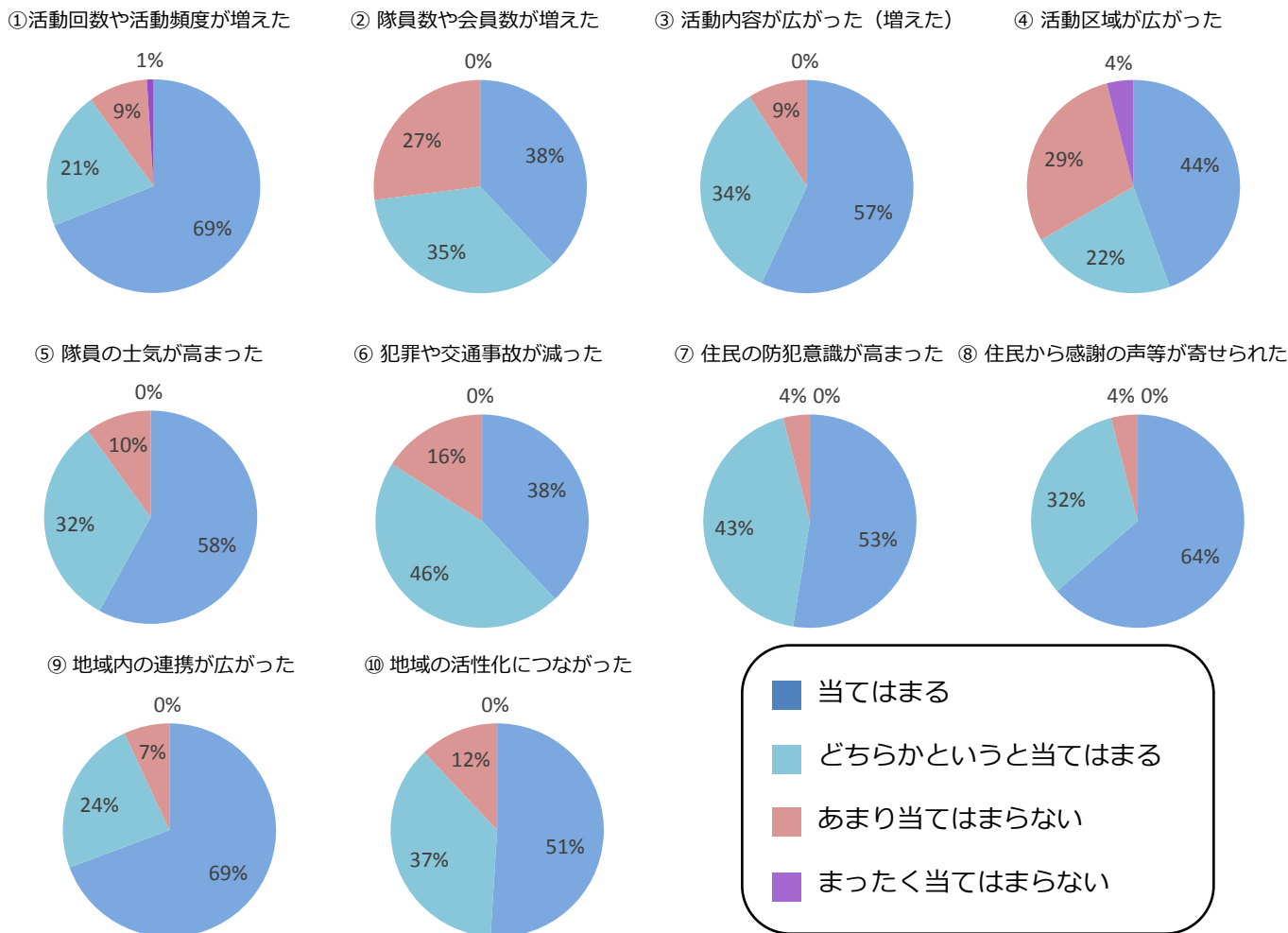
地域間の連携の向上や地域の活性化につながったという意見も多く、単に犯罪件数だけではなく地域間の連携の向上や犯罪意識の向上などの副次的効果も表れている。

「青パト事業に関する調査」概要

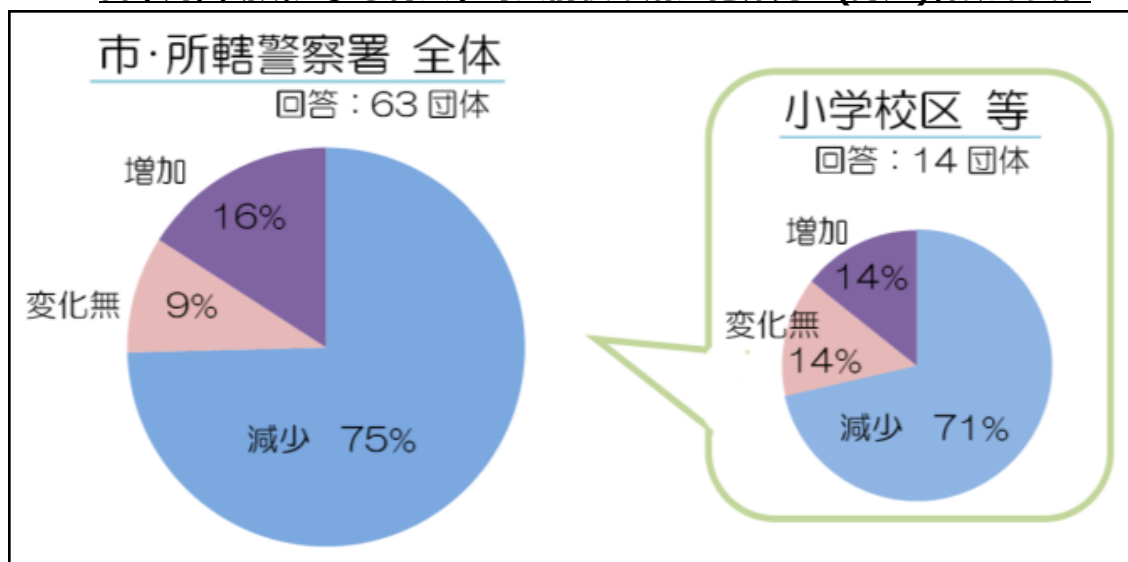
実施年月日：2013年10月9日
 対象団体：114団体
(青パト活動実施団体のみ)
 回収団体：90団体
 回収率：79%

- ・ 犯罪や事故の発生件数 …………… 減少
- ・ 地域の連携 や 活性化 …………… 充実
- ・ 活動の時間 や 回数 …………… 増加
- ・ 活動内容 や 活動区域 …………… 拡充
- ・ 隊員の士気 や 住民の防犯意識 …… 向上

日本財団助成の専用車導入前後での活動状況の変化



日本財回助成による青パト導入前後の刑法犯罪発生(認知)件数の変化



財回助成の青パト導入による成果



- ・ 不審者案件の減少
- ・ ひったくり案件の減少
- ・ 参加団体の増加
- ・ 防災、広報活動での活用
- ・ 活動エリアの拡大、充実
- ・ 音声による防犯啓発効果
- ・ 住民からの理解、信頼
- ・ 近隣地区への車両の貸出
- ・ 住民が気軽に相談
- ・ 防犯講習会への参加者増
- ・ 若者の参加者増
- ・ 警察、学校との連携強化
- ・ 地区の問題点の明確化
- ・ 視覚的な防犯効果
- ・ 住民からの活動費協力
- ・ 警察、自治体からの表彰

困っていること

- ・ 行政との連携不足
- ・ 他の防犯団体との連携
- ・ 行政の援助不足
- ・ 活動費用、維持買替費用
- ・ 高齢化、若手育成
- ・ 隊員入替による意識温度差

警察との連携要望

- ・ 地域活動への参加
- ・ 合同パトロールの実施
- ・ 警察内部（防犯と交通安全）の連携不足
- ・ 事件などの具体的な情報配信

財回への要望

- ・ 2 台目の追加申請
- ・ 全国的な台数の増加
- ・ 現行車両買替時の支援

今後の取組予定

- ・ 安全指導への活用
- ・ パトロール回数増
- ・ 地域行事への活用
- ・ 災害時への対応
- ・ 介護タクシー
- ・ コンビニへの立寄

助成内容

対象：任意団体・法人格のある団体（2年程度の活動実績が必要になります。）

助成金の補助率：事業費総額の80%以内で、助成金の上限金額は130万円です。

※対象経費

車両購入費、塗装費、青色回転灯に係る費用等

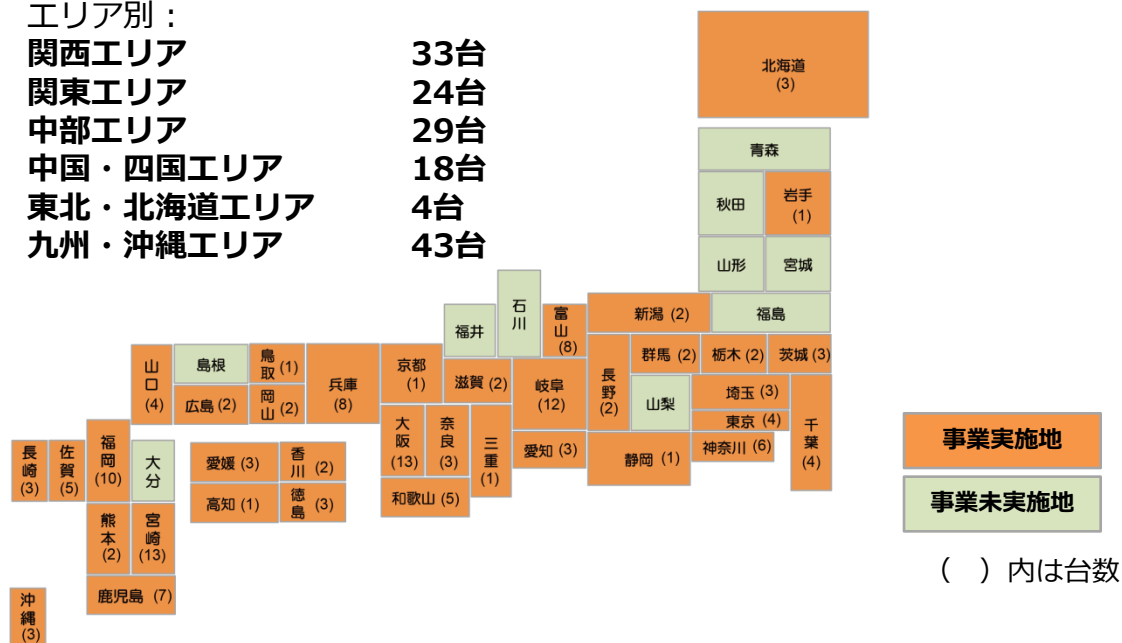
（任意保険料や燃料費等は、経費として含められません。）

2013年度までの助成実績（2013年10月現在）

全国で、150台の青パトを配備

エリア別：

関西エリア	33台
関東エリア	24台
中部エリア	29台
中国・四国エリア	18台
東北・北海道エリア	4台
九州・沖縄エリア	43台



2014年度 審査のポイント

- ①自治体やPTA等といったさまざまな団体と協力して活動する可能性がある。
- ②週5日以上以上の活動が見込める。
- ③地域や団体の特性を生かした工夫や計画がある。

申請について

2013年6月・9月頃に審査期間を設けておりますので、それぞれの配備時期に合わせてご申請ください。なおご不明な点については、お気軽に担当者までご連絡ください。

詳しくは、[ブログ「チーム青パト」](#)をご覧ください。

青パト専用サイト：日本財団「チーム青パト」

青パト専用のサイトです！ぜひ、ご覧ください！

<http://teamaopato.wix.com/aopato>

注) Internet Explorer 8 以前のバージョンではご覧いただけません。
Internet Explorer 9 以上でご覧ください。

The image shows a screenshot of the Teamaopato website. The website header features the logo of The Nippon Foundation and the title "日本財団「チーム青パト」". Below the header are navigation buttons for "ホーム", "助成事業について", "青パトフォーラム", and "お問い合わせ". A dropdown menu under "助成事業について" lists items such as "2013年度 申請について", "2014年度 通常申請について", "指定塗装について", "出発式について", and "完了報告書について". A central photo shows a man speaking at a podium during the "全国青パトフォーラム in 福岡" event. To the right, there are three overlapping document images: a "「青パト」事業に関する計画" (Plan for Teamaopato Project) with various charts and tables; a "助成事業完了報告書" (Completion Report for Grant Project) with financial details and project content; and a "助成契約書" (Grant Agreement) with terms and conditions.

NEW! 2014年3月8日(土) 青パトフォーラム in 福岡を開催しました！

これまでの助成実績や、調査の結果などもご紹介しています！今後、いろいろな団体活動も紹介していく予定です！

申請情報も掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

おわりに

今回、青パトフォーラムに参加させて頂き、住民活動でもある青パト活動の難しさというものを改めて実感しました。今回のフォーラムの意見や課題は青パト活動だけではなく、その他の住民活動においても共通するものがあるのではないかと感じました。それ故、青パト団体以外の住民活動団体などと幅広く連携をとることによって解決への糸口が見つかるのではないかと思います。また、今回の学生のコンペの案が新たな青パト活動を始めるのにあたってのきっかけになれば幸いです。

九州大学大学院 有馬研究室一同

